

# AI が立案した「骨太の方針 2025」案とは

～人工知能 VS 官僚、未来の政策はこう変わる～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

## 1. 骨太の方針の重要性

「骨太の方針」は、正式名称を「経済財政運営と改革の基本方針」という、日本の国家運営において極めて重要な政策文書である。この方針が作られるようになった背景には、1990年代後半から2000年代初頭にかけての日本経済の長期停滞がある。当時の小泉純一郎内閣が、経済再生と財政再建を同時に進める「構造改革」を推進するため、2001年に初めて策定した。

骨太の方針の重要性は、以下の点において顕著である。まず、この方針は翌年度の予算編成の基本となる。各省庁はこの方針に基づいて予算要求を行い、財務省はこれを指針として予算を編成する。次に、骨太の方針は中長期的な国家戦略を示す。人口減少、少子高齢化、財政再建、経済成長戦略、外交・安全保障政策など、日本が直面する重要課題に対する政府の姿勢と対策が明記される。さらに、骨太の方針は政治と行政、そして民間セクターを結ぶ重要な接点となっている。

骨太の方針が実際の政策や生活に与えた影響は多岐にわたる。たとえば、2013年以降の方針に盛り込まれた「アベノミクス」政策は、大胆な金融緩和や財政出動を通じて日本経済の回復を促し、実質的な賃上げや雇用の改善につながった。また、2015年の方針で示された「一億総活躍社会」の理念は、働き方改革や女性の社会進出促進など、具体的な政策として実現されてきた。さらに、近年の方針に含まれるデジタル化推進は、マイナンバーの普及やデジタル庁の設立など、社会のデジタルトランスフォーメーションを加速させている。

近年の AI 技術の飛躍的な進歩は、政策立案の領域にも新たな可能性をもたらしている。機械学習や自然言語処理の発展により、AI は膨大なデータを処理し、複雑な分析を行うことが可能になった。これらの技術を活用することで、過去の骨太の方針のデータ、経済指標、社会動向、国際情勢などを総合的に分析し、将来の政策方針を導き出せる可能性が出てきた。

本レポートでは、このような背景を踏まえ、AI が 2025 年の骨太の方針を作成できるかという挑戦的な課題に取り組む。その結果を分析することで、AI による政策立案の可能性と限界を探る。

## 2. 2022 年から 2024 年の骨太の方針の分析

本節では、2022 年から 2024 年の骨太の方針について、AI を用いて分析を行った結

果を詳細に記述する。この分析は主に2つの段階から構成される。最初に過去3年分の骨太の方針を読み込み、次にその分析結果を評価する。まず、2022年から2024年の骨太の方針をAIに読み込ませ、「過去3年間の骨太の方針について時系列で分析してください」と指示したところ、AIは各年の重点課題や背景、時系列での傾向、今後の展望について詳細にまとめた。その分析によると、2022年から2024年にかけて「新しい資本主義」の概念が深化し、賃上げと投資を経済成長の主要なエンジンとして位置づける傾向が強まっていることが明らかになった。また、社会課題の解決と経済成長の両立、官民連携の重要性、中長期的視点での政策立案などが一貫して強調されている点も指摘された。AIは今後の展望として、新しい資本主義の実行状況の注視、賃上げと投資の好循環維持、社会課題解決に向けた官民連携の強化、国際環境変化への柔軟な対応などを挙げており、これらの分析結果は今後の政策立案や経済戦略の検討に有用な示唆を提供している（図表1）。

図表1 2022年から2024年の骨太の方針の主要トピックと傾向分析

## 過去3年間の骨太の方針 時系列分析

## 2022年：新しい資本主義～課題解決を成長のエンジンに変え、持続可能な経済を実現～

- 背景: 新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵攻による世界情勢の不安定化、エネルギー・資源価格高騰、気候変動問題など、国内外で課題が山積する状況。
- 重点課題:
  - 新しい資本主義: 人への投資、科学技術・イノベーション、スタートアップ、GX、DXへの投資を柱に、官民連携で課題解決と経済成長を同時に実現。
  - 社会課題への対応: 多様性と包摂性を重視した社会の実現、地方創生、経済安全保障の強化。
  - 外交・安全保障: 自由で開かれた国際秩序の維持・強化、日米同盟の強化、ウクライナ支援、拉致問題解決。
  - 財政健全化: 経済再生と財政健全化の両立、ワズスベンディングの徹底、税制改革。

## 2023年：加速する新しい資本主義～未来への投資と成長を実現する構造的転換～

- 背景: 2022年の骨太方針を踏まえ、新しい資本主義の実行を加速。賃上げと投資を起点とした成長と分配の好循環の実現を目指す。
- 重点課題:
  - 構造的賃上げ: 賃上げ促進、三位一体の労働市場改革、価格転嫁対策。
  - 官民連携投資: GX、DX、科学技術・イノベーション、フロンティア開拓、経済安全保障への投資拡大。
  - 少子化対策: こども・子育て政策の抜本的強化、加速化プランの実施。
  - 包摂社会: 女性活躍、共生社会、孤独・孤立対策、就職氷河期世代支援。
  - 持続可能な財政: 中長期的な視点に立った経済財政運営、EBPMの強化。

## 2024年：～賃上げと投資がけん引する成長型経済の実現～

- 背景: デフレ脱却のチャンスをつかえ、賃上げと投資をけん引とした成長型経済の実現を目指す。
- 重点課題:
  - 賃上げ定着: 賃上げ促進、三位一体の労働市場改革、価格転嫁対策の強化。
  - 戦略的投資: DX、GX、フロンティア開拓、科学技術・イノベーション、経済安全保障への投資を継続的に拡大。
  - スタートアップエコシステム構築: スタートアップ支援、資金供給、規制改革、海外展開支援。
  - 地方創生: デジタル田園都市国家構想、地方行財政基盤強化、関係人口拡大。
  - 持続可能な社会保障: 全世代型社会保障制度の構築、医療・介護DX、健康寿命延伸。
  - 国際環境変化への対応: グローバル戦略強化、海外活力取り込み、エネルギー構造転換。

## 時系列分析から見える傾向:

- 新しい資本主義の深化: 2022年に提唱された「新しい資本主義」は、2023年、2024年と深化・具体化。
- 賃上げと投資の重視: 3年間を通して、賃上げと投資を経済成長の重要なエンジンと位置付け、政策を展開。
- 社会課題解決と経済成長の両立: GX、DX、少子化対策など、社会課題解決を経済成長の機会と捉え、積極的に取り組む姿勢。
- 官民連携の重要性: 課題解決には、政府だけでなく、民間企業、NPO、大学など、多様な主体の連携が不可欠との認識。
- 中長期的な視点: 人口減少、高齢化、国際情勢の変化など、中長期的な課題を見据えた政策運営を重視。

## 今後の展望:

- 新しい資本主義の実行状況を注視し、必要に応じて政策を修正・強化。
- 賃上げと投資の好循環を維持・拡大し、持続的な経済成長を実現。
- 社会課題解決に向けた官民連携を強化し、国民のWell-being向上に貢献。
- 国際環境変化に柔軟に対応し、我が国の国益を確保。

資料: Google AI Studio より筆者作成

次に、AIに対して「過去3年間の骨太の方針について時系列で評価してください」と指示したところ、AIは過去3年間の骨太の方針にもとづく政策について時系列で詳細な評価を行った。2022年の方針については、新しい資本主義という理念を掲げた点を評価しつつ、具体性の不足や財源の曖昧さを指摘した。2023年の方針に関しては、具体的な政策の提示や構造改革への意識を評価する一方で、実行力に課題が残るとした。2024年の方針については、デフレ脱却への強い意志や重点課題への集中、政策の継続性を評価しながらも、財政健全化とのバランスや政策の実効性に関する課題を指摘した。

総評として、過去3年間の骨太の方針が賃上げと投資を軸とした成長戦略を推進し、社会課題解決と経済成長の両立を目指してきた点を評価しつつ、政策の実効性やスピード感、財政健全化とのバランスなどの課題も残されているとした。AIは今後の注目点として、具体的な政策の実行状況と成果、財政健全化に向けた具体的な計画、規制改革や意識改革など政策の実効性を高めるための取組みの進捗状況を挙げた。

最後に、日本経済の未来は政府の政策だけでなく、企業の努力、個人の行動、社会全体の意識改革にかかっているとし、官民一体となって課題解決と成長に取り組むことの重要性を強調した（図表2）。

各年の骨太の方針により実現した政策の具体的な事例としては、以下のようなものが挙げられる。2022年の方針では、賃上げ促進税制の拡充が盛り込まれ、これにより多くの企業で賃上げが実施された。2023年の方針では、デジタル田園都市国家構想の推進が掲げられ、地方でのテレワーク推進や5G整備が加速した。2024年の方針では、グリーントランスフォーメーション（GX）推進のための投資促進策が導入され、再生可能エネルギー関連産業の成長につながった。これらの例は、骨太の方針が単なる理念的な文書ではなく、実際の政策立案と実行に直結する重要な指針であることを示している。

図表 2 2022年から2024年の骨太の方針の評価と課題

過去3年間の骨太の方針 時系列評価
<p><b>2022年：新しい資本主義～課題解決を成長のエンジンに変え、持続可能な経済を実現～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価: <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 方向性の提示: コロナ禍やウクライナ侵攻など、困難な状況下で、新しい資本主義という理念を掲げ、目指すべき方向性を明確に示した点は評価できる。</li> <li>◦ 具体性の不足: 「新しい資本主義」の内容は抽象的な部分が多く、具体的な政策や実行計画が不足していた。</li> <li>◦ 財源の曖昧性: 大胆な投資を掲げる一方で、財源については明確な道筋を示せていなかった。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2023年：加速する新しい資本主義～未来への投資と成長を実現する構造的転換～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価: <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 具体化の進展: 賃上げ促進、官民連携投資、少子化対策など、具体的な政策を提示し、実行計画を策定した点は前進。</li> <li>◦ 構造改革への意識: 労働市場改革、価格転嫁対策など、経済構造を変革する重要性を認識し、具体的な施策を打ち出した点は評価できる。</li> <li>◦ 実行力への課題: 政策の実効性やスピード感については、まだ不十分な部分も残る。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2024年：～賃上げと投資がけん引する成長型経済の実現～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価: <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ デフレ脱却への強い意志: デフレ脱却の好機を捉え、賃上げと投資を軸とした成長型経済への転換を目指す明確なビジョンを示した点は評価できる。</li> <li>◦ 重点課題への集中: スタートアップエコシステム構築、地方創生、持続可能な社会保障など、重要課題に資源を集中投下する姿勢を示した点は評価できる。</li> <li>◦ 政策の継続性: 過去2年間の骨太方針を踏襲し、政策の継続性を重視している点は評価できる。</li> <li>◦ 課題: <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 財政健全化とのバランス: 積極的な財政支出を続ける一方で、財政健全化目標とのバランスをどのように取るのか、具体的な道筋が不透明。</li> <li>▪ 政策の実効性: 大胆な政策を掲げる一方で、規制改革や意識改革など、政策の実効性を高めるための取り組みがどこまで進むかが鍵となる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p><b>総評:</b></p> <p>過去3年間の骨太方針は、「新しい資本主義」という理念の下、賃上げと投資を軸とした成長戦略を推進し、社会課題解決と経済成長の両立を目指してきた。具体的な政策や実行計画も年々充実してきており、方向性としては評価できる。</p> <p>しかし、政策の実効性やスピード感、財政健全化とのバランスなど、課題も残されている。今後、これらの課題を克服し、骨太方針に掲げられたビジョンを実現できるかどうか、日本経済の未来を左右する重要なポイントとなるだろう。</p> <p><b>今後の注目点:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な政策の実行状況と成果</li> <li>・ 財政健全化に向けた具体的な計画</li> <li>・ 規制改革や意識改革など、政策の実効性を高めるための取り組みの進捗状況</li> </ul> <p>日本経済の未来は、政府の政策だけでなく、企業の努力、個人の行動、そして社会全体の意識改革にかかっている。骨太方針の一つの指針として、官民一体となって課題解決と成長に取り組むことが重要である。</p>
資料: Google AI Studio より筆者作成

### 3.AIによる 2025 年骨太の方針骨子案の作成

2025 年の骨太の方針骨子案をAIに作成してもらうために、「2022 年、2023 年の骨太の方針の評価と 2024 年の内容を踏襲し、2025 年の骨太の方針の骨子を作成ください」と指示したところ、2025 年骨太の方針の骨子案が作成された。この骨子案は、「成長型経済の定着とWell-being社会の深化：希望を生み出す日本へ」というテーマを掲げ、序論、基本的考え方、重点政策、結語の 4 つの主要セクションで構成されている。

序論では新たなステージへの挑戦を掲げ、基本的考え方では持続可能な成長と包摂的な社会の実現を目指すとしている。重点政策は 4 つの柱で構成され、成長型経済のエンジン再点火、Well-being社会の深化、激動する世界をリードする日本へ、持続可能な財政構造の構築が挙げられている。各政策分野では具体的な施策が示されており、賃上げの定着化と加速、未来への投資加速、全世代型社会保障の進化、少子化対策の抜本的強化、教育改革 2.0、共生・共助社会の深化などが含まれている。また、国際競争力強化や経済安全保障の視点も盛り込まれており、グローバルな視点と国内課題のバランスが取れた内容となっている。結語では、国民一人ひとりが希望をもてる未来の創造に向けた決意が表明されている。この骨子案は、過去の方針の評価を踏まえつつ、新たな社会経済環境に対応するための方向性を示しており、今後の日本の経済社会政策の指針となることが期待される（図表 3）。

AIが提案するWell-being社会とは、経済的な豊かさだけでなく、心身の健康、社会的つながり、環境との調和など、多面的な観点から個人と社会の幸福を追求する社会を指す。これは単に物質的な豊かさを追求するのではなく、人々の生活の質や満足度を重視する考え方である。具体的には、ワーク・ライフ・バランスの改善、心身の健康増進、生涯学習の促進、社会参加の機会拡大、環境保全と経済成長の両立などが含まれる。Well-being社会の深化とは、これらの要素がより広く社会に浸透し、制度や文化として定着していくことを意味する。たとえば、企業が従業員の健康と幸福を重視する健康経営の普及、地域コミュニティの再生と強化、持続可能な環境政策の実施などが、Well-being社会の深化につながると考えられる。

図表 3 AI が生成した 2025 年骨太の方針骨子案の概要(重点政策の部分のみ掲載)

<p><b>3. 重点政策</b></p> <p><b>(1) 成長型経済の基盤強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>賃上げ促進:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 企業の生産性向上を支援し、賃上げの原資を確保。</li> <li>◦ 最低賃金の引上げを着実に進め、地域間格差の是正を図る。</li> <li>◦ 男女間賃金格差の解消に向けた取り組みを強化。</li> </ul> </li> <li>• <b>投資拡大:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 官民連携によるGX、DX、科学技術・イノベーションへの投資を継続的に拡大。</li> <li>◦ スタートアップエコシステムを強化し、新規事業創出を促進。</li> <li>◦ 社会資本整備を効率的・効果的に進め、生産性向上と災害対応力強化を図る。</li> </ul> </li> <li>• <b>規制改革・制度改革:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ デジタル化・グリーン化を阻害する規制・制度を大胆に見直し、イノベーションを促進。</li> <li>◦ 新しい動き方やビジネスモデルに対応した柔軟な制度を構築。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>(2) Well-being社会の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>全世代型社会保障:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 医療・介護の質と効率を向上させ、持続可能な制度を構築。</li> <li>◦ デジタル技術を活用し、医療・介護DXを推進。</li> <li>◦ 健康寿命を延伸し、生涯活躍できる社会を実現。</li> </ul> </li> <li>• <b>少子化対策:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ こども・子育て支援を拡充し、若い世代の経済的負担を軽減。</li> <li>◦ 結婚・妊娠・出産・子育てを希望する人が、安心してその希望を実現できる社会を構築。</li> </ul> </li> <li>• <b>人材育成・教育改革:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ デジタル化・グリーン化に対応した人材育成を強化。</li> <li>◦ 個別最適な学びと協働的な学びを実現する教育改革を推進。</li> <li>◦ 生涯にわたる学び直しを支援し、リスキリングを促進。</li> </ul> </li> <li>• <b>多様性と包摂性:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 女性活躍、LGBTQ+の権利擁護、障害者支援、外国人との共生など、多様性と包摂性を重視した社会を構築。</li> <li>◦ 孤独・孤立対策を強化し、誰もが安心して暮らせる社会を実現。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>(3) 国際環境変化への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>外交・安全保障:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 自由で開かれた国際秩序の維持・強化に貢献。</li> <li>◦ 日米同盟を基軸とした安全保障体制を強化。</li> <li>◦ 経済安全保障を推進し、サプライチェーンの強靱化を図る。</li> </ul> </li> <li>• <b>グローバル戦略:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ グローバル・サウスとの連携を強化し、経済連携を推進。</li> <li>◦ 海外からの投資・人材を積極的に誘致。</li> <li>◦ 国際的なルール形成に積極的に参画。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>(4) 財政健全化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>歳出改革:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ EBPMを徹底し、効果的・効率的な予算執行を推進。</li> <li>◦ 政策の優先順位を見直し、歳出構造改革を断行。</li> </ul> </li> <li>• <b>歳入改革:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 経済成長を阻害しない、安定的な税収基盤を確保。</li> <li>◦ 税制の公平性・簡素化・透明性を向上。</li> </ul> </li> </ul>
--

資料: Google AI Studio より筆者作成

#### 4.AIによる政策立案の可能性と課題

これまでの実験結果から、AIによる政策立案能力には大きな可能性があるといえる。AIは膨大なデータを高速で処理し、過去の政策文書や統計データを総合的に分析することで、一貫性のある政策提言を行うことができる。特に、過去の傾向を的確に把握し、それを踏まえた将来予測を行う能力は人間を凌駕する可能性もある。また、AIは客観的なデータにもとづいた政策立案を行うことができる点も大きな利点である。さらに、AIは24時間365日稼働可能であり、常に最新のデータを取り込んで政策を更新することができる。これにより、急激な社会変化や予期せぬ事態にも迅速に対応する政策立案が可能となる。

一方で、AIによる政策立案には課題も存在する。まず、AIは与えられたデータやアルゴリズムに基づいて判断を行うため、データの質や選択に偏りがあると、その結果にも偏りが生じる。また、AIは倫理的判断や価値観にもとづく選択を行うことが困難であり、社会的合意形成が必要な政策分野では人間の介入が不可欠である。さらに、AIが提案する政策の実現可能性や具体的な実施手順については、人間の専門家による精査が必要となる。

加えて、AIによる政策立案を導入することで、政治家や官僚の役割が変化する可能性がある。政策立案のプロセスが自動化されることで、人間の政策立案者は、より高度な判断や調整に集中できるようになる一方で、政策立案のスキルや経験が失われる懸念もある。

これらの課題を克服しつつ、AIと人間の専門家が協働することで、より効果的かつ効率的な政策立案が可能になると考えられる。具体的には、AIが大量のデータを分析し、政策オプションを提示し、人間の専門家がそれらを評価し、最終的な意思決定を行うというプロセスが想定される。このような協働モデルを構築することで、AIの客観性と人間の価値判断を組み合わせた政策立案を実現できるのではないかと期待される。

今後、AIによる政策立案の実用化に向けては、より多くの実験や検証が必要となる。特に、AIが生成した政策案の有効性や実現可能性を評価するための基準や手法の確立が求められる。また、AIによる政策立案を公共の意思決定プロセスに組み込むための法的・制度的枠組みの整備も課題となる。さらに、AIによる政策立案の透明性や説明責任を確保するための仕組みづくりも重要である。AIの透明性については、使用されたデータやアルゴリズムの公開、意思決定プロセスの可視化などが考えられる。説明責任に関しては、AIが提案した政策の根拠や予測される影響を、人間の専門家が精査し、国民にわかりやすく説明する体制が必要となるだろう。もちろん、AIによる政策立案が進んだとしても、最終的な意思決定は人間が行うべきであることはいまでもない。